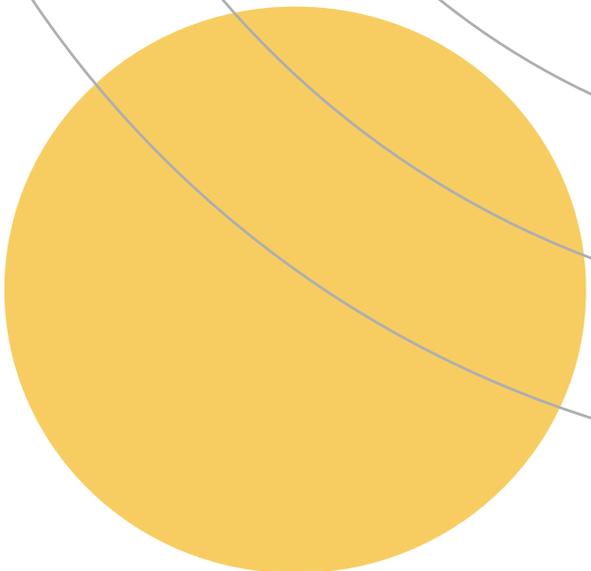
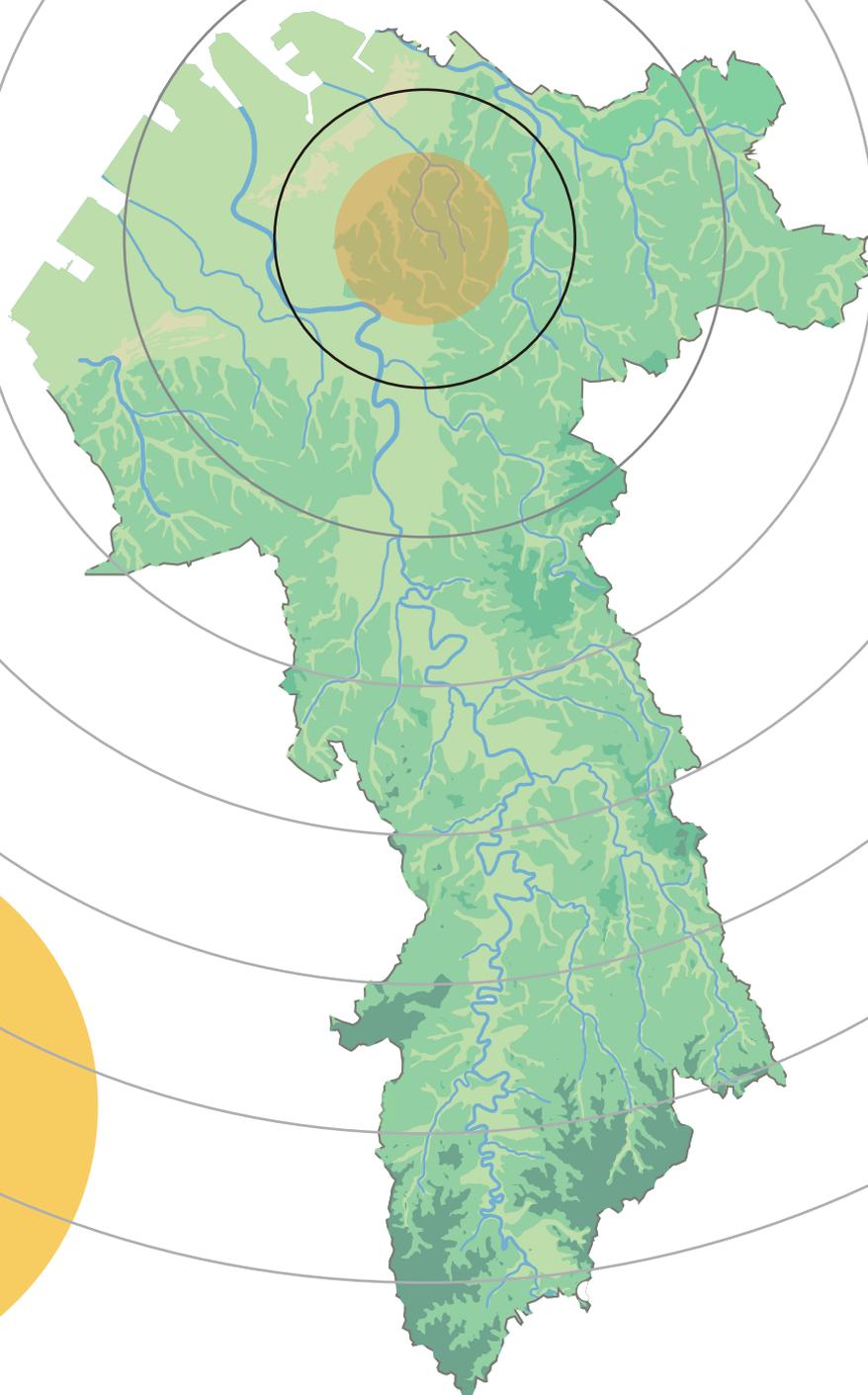


いちはら歴史のミュージアム事業
基本方針



目 次

- 1 いちはら歴史のミュージアム事業の意義・・・・・・・・・・ 1
- 2 歴史遺産を取り巻く状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (1) 「いちはら」の歴史遺産
 - (2) 歴史遺産がつなぐ地域の絆
- 3 いちはら歴史のミュージアム事業の活動理念・・・・・・ 6
 - (1) 歴史をつなぎ、地域の魅力を高めます
 - (2) 人をつなぎ、地域を活性化します
- 4 いちはら歴史のミュージアム事業の方向性・・・・・・・・ 8
 - (1) 歴史をつなぎ、人をつなぐネットワーク
 - (2) ネットワーク拠点としてのミュージアム

1 いちはら歴史のミュージアム事業の意義

「いはら」の地が人々の生活の舞台となってから、3万年の時が流れました。古代には国府・国分寺が置かれ、中世には鎌倉幕府の庇護のもと、房総の拠点として栄えました。戦国の混乱した時代を経て、江戸時代には幕府の直轄地となり、様々な江戸の文化が伝わり、現代にも受け継がれています。明治から大正時代の鉄道敷設とともに近代化が進み、昭和30年代に遠浅の海が臨海工業地帯に姿を変えると、市原市は新たな躍動の時代を迎えました。

我が国の各地方・各地域には、自然や風土に根ざして営まれてきた多様な生活があり、その中で育まれ、継承されてきた固有の伝統的文化があります。歴史遺産とは、こうした伝統的文化によって生み出された有形・無形の所産であり、「いはら」には「いはら」独自の個性豊かな歴史遺産が数多く存在します。これらは悠久の歴史を積み重ねてきた「いはら」の証であり、アイデンティティの根源となるものです。

近年、人口減少や少子高齢化などの社会構造の変化により、歴史遺産を支えてきた地域社会の衰退や、継承するための担い手不足などの問題が生じています。このような中、歴史遺産を地域資源として活用し、地域の特色に応じた取組を展開することで、歴史遺産を支える人材の育成や新たな交流の創出につなげるなど、地域の活性化を図ることが求められています。

いはら歴史のミュージアム事業は、市民が「いはら」で暮らし続けたいと思える「誇りの創生」に向け、市民との協働のもと、歴史遺産を核とした活動を行います。市内に点在する歴史遺産を総合的に捉え、つながりを持たせることで価値を高め、社会全体で保存・活用していく持続的な方策を推進するとともに、「いはら」の未来を担う子どもたちが歴史遺産に親しむ機会を設けることで、「地域への愛着」を育みます。

2 歴史遺産を取り巻く状況

(1) 「いちはら」の歴史遺産

「いちはら」は、東京湾の豊かな海、市内を南北に貫く養老川がもたらした肥沃な平野と緑豊かな山間部からなる、恵まれた自然環境の中にあります。こうした自然環境との共生のもとに多様な伝統文化が息づき、全国的に見ても優れた歴史遺産を現代に伝えていきます。

① 輝きを放つ原始古代

「いちはら」には国府・国分寺が置かれ、大国上総の政治・文化の中心として栄えました。全国有数の規模を誇る国分寺・尼寺の屋根瓦には奈良の都と同じ最先端の文様が使われ、国分寺の象徴である七重塔が市庁舎よりも高くそびえ立っていました。国府の所在地は依然謎に包まれています。平安女流文学の代表作である更級日記の冒頭には、作者の上総国司菅原孝標の娘が「いちはら」で過ごした少女時代や京の都へ出立する様子が記されています。そして東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年は、作者の旅立ちから千年紀に当たります。



上総国分尼寺跡復元建物

このほか、東日本最古の古墳である神門古墳群、南関東有数の大型古墳群である姉崎古墳群、国産最古の有銘鉄剣である「王賜」銘鉄剣など、全国に誇る歴史遺産が数多く遺され、枚挙にいとまがありません。これらの歴史遺産は、「いちはら」が東日本の中心的な地域の一つであったことの証です。なかでも「王賜」銘鉄剣は重要



「王賜」銘鉄剣

文化財級の逸品であり、これをさかのぼる時期の銘文は、昭和 63 年の発見から 30 年近くたった今も出土していません。まさに「いちはらの至宝」と言っても過言ではありません。

② 武士の台頭

将門伝説や頼朝伝説が数多く息づく「いちはら」は、中世を象徴する武士台頭の舞台でもありました。鎌倉幕府や足利氏の庇護のもと、飯香岡八幡宮や西願寺阿弥陀堂、鳳来寺観音堂などの貴重な建造物や多数の仏像がつくられました。



新緑の西願寺阿弥陀堂

袖ヶ浦市から市原市の立野に向かって真っすぐに延びる道は、のちに鎌倉街道と呼ばれる中世の幹線道路で、千葉県で唯一「歴史の道百選」に選ばれています。鶴峯八幡の神楽は、この道を使って鶴岡八幡宮から伝えられたとも言われ、人々が活発に往来した様子をうかがわせます。

室町幕府の力が次第に衰えて戦国時代になると、「いちはら」の地は武田氏・里見氏・北条氏が勢力を争う戦乱の舞台となり、椎津城をはじめとする中世城郭が、市内各地につくられました。

③ 今に息づく歴史遺産

江戸時代の「いちはら」は、幕府の直轄地や旗本、大名の知行地として支配を受けました。江戸湾の海上交通が発達すると、年貢米や薪炭などの物資が五大力船によって運ばれ、100 万都市と言われた江



五大力船の船下ろし

戸の人々の暮らしを支えました。また、房総往還などの街道の整備も進み、水戸光圀や小林一茶、伊能忠敬らが「いちはら」を訪れました。こうした江戸との交流によって、祭囃子など多くの文化が伝えられました。

「いちはら」は、出羽三山から遠く離れた地でありながら、信仰が色濃く残る特異な地方で、ほぼ集落ごとに供養塚が設けられています。上高根の三山信仰は、旧来の形態を守り続けているほか、現在は神社の祭礼日などに演じられる大塚ばやしも、もともとは出羽三山信仰に基づく梵天納めの日に奉納されていたものです。

他にも、近代遺産として注目を集めている小湊鐵道駅舎群など、「いちはら」には、多種多様な歴史遺産が市域全体に広がっています。



出羽三山梵天納め



「関東の駅百選」にも選ばれた上総鶴舞駅

(2) 歴史遺産がつなぐ地域の絆

高度経済成長期以降、県都千葉、首都東京のベッドタウンとして大規模な住宅地の開発が進むと、市の人口が急速に増加する一方で、人々の郷土意識や地域社会の連帯感は希薄になりました。

近年は、過疎化や少子高齢化に加え、市外に転出する女性や若者が増加する傾向にあり、地域の祭りや伝統行事などの歴史遺産を継承し続けることが難しくなっています。

このような中、身近な歴史遺産を見直し、地域の資源としてまちおこしにつなげる試みが全国で行われるようになってきました。また、歴史遺産がつないだ縁で、活動が広域間の交流に発展する事例も現れはじめ、地域の活性化につながっています。

歴史遺産は昔を知るためだけの過去の産物ではありません。祭りや伝統行事などは、今なお日々の営みの中に息づいており、継承されることで地域のコミュニティが維持され、地域の人々の心のよりどころにもなってきました。歴史遺産は地域の絆を深め、未来へつながる地域連帯の核となる力を持っているのです。

今を生きる地域の人々が、郷土に誇りと愛着を持って暮らし続けるには、地域の歴史や伝統文化、産業などに日常的に接し、様々な活動に参加するなかで、自らが地域社会の一員であることを知ってもらうことが大切です。

「いちはら」に住み、「いちはら」で学び、「いちはら」で働くことに誇りと愛着を感じることで、活力あるまちづくりにつながります。「いちはら」が誇る歴史遺産を核として「市民力」を結集し、地域の活性化につなげていかなければなりません。

3 いちはら歴史のミュージアム事業の活動理念

いはら歴史のミュージアム事業は、地域への誇りと愛着を育み、地域の活性化につなげます。市内に点在する個々の歴史遺産、そして一人ひとりの市民を、点から線へつなぎ、線から面へと広げるため、以下の2点を活動の理念とします。

(1) 歴史をつなぎ、地域の魅力を高めます

身近にある歴史遺産に光を当てて、市民と協働で掘り起し、地域の魅力として磨き上げます。

市内に点在し、一見無関係に見える個々の歴史遺産は、歴史的特性を示すストーリーや一定のテーマに沿って総合的に捉えることでつながりを持ち、価値が高まるとともに、人々の理解も深まります。

歴史遺産を知ることは、地域のアイデンティティを再確認することにも貢献します。歴史遺産は地域にとってかけがえのない財産、そして誇りであり、その特色を生かした取組を展開することで、地域の魅力は高まります。

(2) 人をつなぎ、地域を活性化します

地域の主体的な活動や、市民の積極的な参画を促すことで人をつなぎ、「市民力」で歴史遺産の価値の向上と共有を図ります。

地域、そして学校と連携し、子どもたちが歴史遺産を学び、体験することのできる機会を設けることで、地域を担い、世代をつなぐ人材を育て、地域への誇りと愛着の心を育みます。

市民の歴史遺産に対する関心と理解を高め、歴史遺産の保存・継承への参画と交流を創出することで、地域の活性化と新たなまちづくりにつなげます。

4 いちはら歴史のミュージアム事業の方向性

(1) 歴史をつなぎ、人をつなぐネットワーク

いはら歴史のミュージアム事業は、市内全域をフィールドとします。市民とともに歴史遺産を探求し、その成果に多くの市民が触れる機会を設けることで、歴史遺産への関心に結び付け、歴史遺産を支える人材を育てます。

地域への愛着を育み、未来へと向かう新たないはらの「誇り」を創生するため、前述の活動理念に基づき、次の活動を継続的に行います。

- 歴史遺産を掘り起こし磨き上げて、価値を高めます
- 歴史遺産の価値を活かして、地域の絆を深めます
- 歴史遺産の価値を共有して、次世代に継承します
- 歴史遺産の魅力を広く発信します

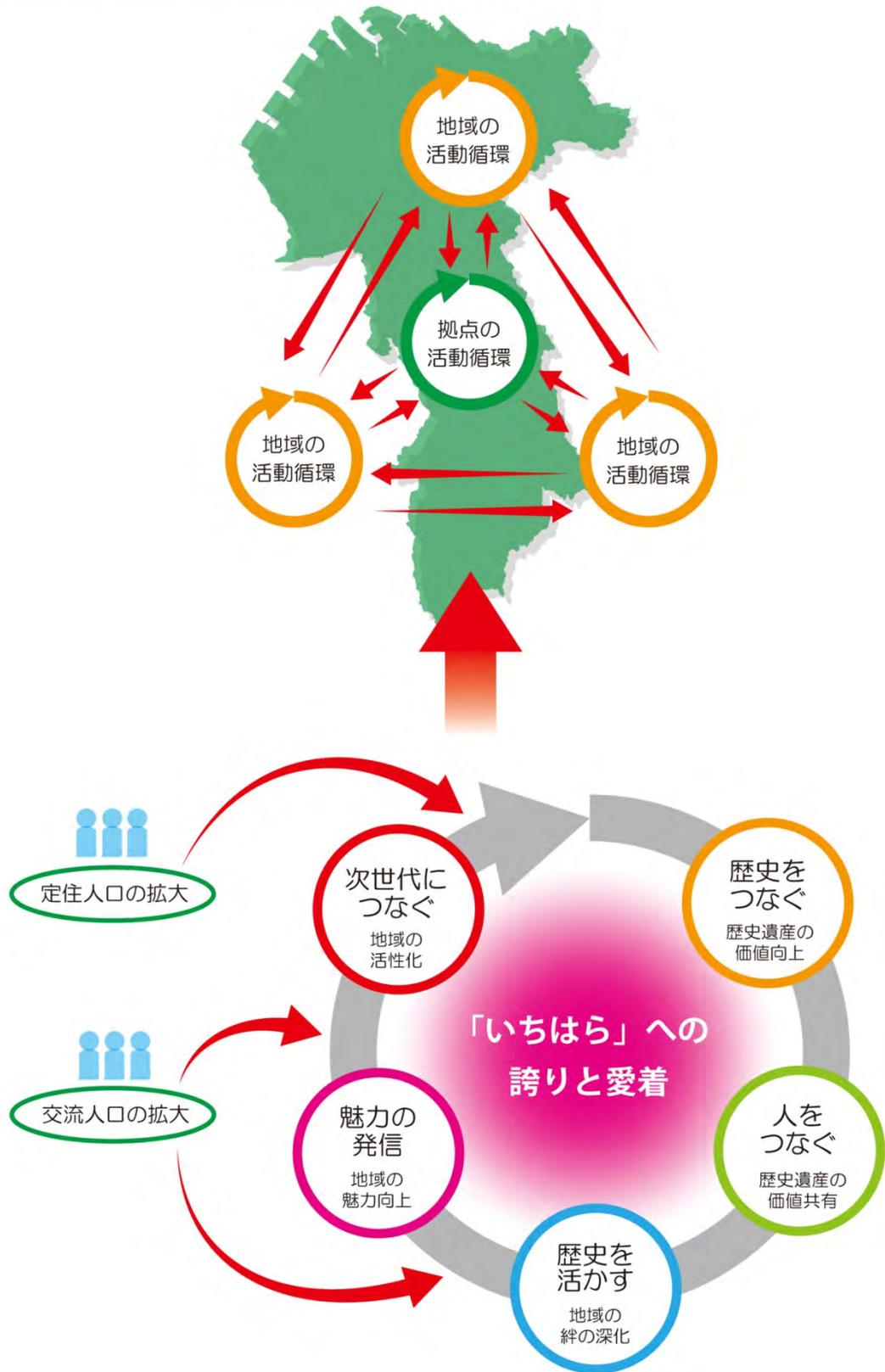
(2) ネットワーク拠点としてのミュージアム

「歴史をつなぐネットワーク」、また「人をつなぐネットワーク」のハブ機能を担う拠点施設として、「（仮称）いはら歴史のミュージアム」の整備を行います。

「（仮称）いはら歴史のミュージアム」は、地域の主体的な活動を支援し、活動成果の発表や交流の機会を設けます。市民が歴史遺産を知り、学び、活動するためのきっかけをつくり、歴史遺産の価値と魅力をわかりやすく伝えます。

市内各地域と拠点施設が行う歴史遺産を核とした活動を、双方向的に連携させることで相乗効果を生み出し、地域を活性化させる好循環につなげます。

地域と拠点の活動循環



いちほら歴史のミュージアム事業 スケジュール(案)

